

2021年11月22日

報道機関 各位

シンポジウム「引揚げと帰国：引揚第一歩の地『長崎』で考える」を開催

「引揚げ」とは、第二次世界大戦後、外地(海外の占領地など)で生活していた人が内地(日本国内)に帰還することを指します。長崎県は、引揚げ第一歩の地であるにもかかわらず、その歴史についてはあまり注目されてきませんでした。戦後75年を過ぎた今だからこそ、国内外から研究者を招聘し、引揚げにとって重要な意義を持つこの長崎という地で、「引揚げ」と「帰国」の歴史を明らかにしつつ、今日のアジアと日本におけるこれらの本国帰還者の意義に関する再考を試みる。これが本シンポジウムの目的です。

シンポジウム「引揚げと帰国：引揚第一歩の地『長崎』で考える」(以下、敬称略)

場 所：長崎大学総合教育研究棟2階 多目的ホール及びオンライン (ZOOM 配信)

時 間：11月27日(土) 09:00~12:00

言 語：日本語

司 会：玄武岩(ヒョン ムアン) (北海道大学)

申込はこちらから：<https://forms.gle/bUKsjnmRyS6eqgKN8>

基調講演 09:10~10:10	テッサモリス-スズキ (オーストラリア大学・名誉教授) ・移動、強制移住、そして“引き揚げ”-サハリン及びクリル諸島先住民の移動史
休憩 10:10~10:20	
研究報告 10:20~10:40	パイチャゼ スヴェトラナ (北海道大学) ・1950年代の引き揚げから1960年代の帰国へ -日ソの交渉の中心に
10:40~11:00	藤野陽平 (北海道大学) ・終戦後満州から台湾へ移動した日本人女性の道のり
11:00~11:20	南誠 (長崎大学) ・日本社会と引揚者の関係に関する一考察：中国からの帰還
休憩 11:20~11:30	
討論 11:30~12:00	コメンテーター：上水流久彦 (県立広島大学)、王維 (長崎大学)

【本リリースに関するお問い合わせ先】

国立大学法人長崎大学 多文化社会学部 准教授 南 誠

Email: lsk-minami@nagasaki-u.ac.jp